

企業リーダーによる地元愛職業講座 事業報告書

2022年2月
大分経済同友会

目 次

はじめに	2
1. 実施の経緯	3
2. 事業実績	5
3. 事業評価	9
4. 他地域の経済同友会における取り組み	18
5. 次年度に向けて	20
6. 出前講座運営マニュアル	22

はじめに

大分経済同友会には、ダイバーシティ大分委員会以前に人口減少社会対策委員会があり、人口の自然増を目指した婚活イベントの実施や、UIJ ターンに向けた調査・研究を行ってまいりました。2019年度に、人口減少社会対策委員会を発展させるかたちでダイバーシティ大分委員会に名称変更することとなりました。主な調査・研究テーマについては、ダイバーシティ、関係人口の増加、地元愛の醸成を掲げております。コロナ禍で活動が制限される中、今年度は関係人口の増加と地元愛の醸成を主に調査・研究しました。

今年度初めて実施した出前講座についても、「地元愛醸成」という観点から将来、大分県内の企業に就職することを目的に開始したものです。その一方で、各中学校の校長先生と打ち合わせを行う中で、生徒に「働くことの意義」も伝えてほしいとの要望も承りました。「働くことの意義」については、教師が説明するよりも外部の方が説明する方が、生徒に対して説得力があるとのことでした。そのため今年度は、講師の方々に自らの学生時代の過ごし方やなぜ大分で働くようになったのかを含めて授業をしていただきました。

今年度は、初めて実施したこともあり講師を引き受けた皆様に、この授業の意義をしっかりと理解したうえで中身の濃い授業を行っていただきました。そのため校長先生・教師・生徒からおおむね高評価をいただきました。また、講師を担当した方々も中学生の率直な反応や鋭い質問に感心し、新たな刺激を受けました。

キャリア教育となると、愚直に「働くこと」や「職業紹介」に終始しがちになりますが、あえて大分経済同友会の会員である企業経営者が生徒に直接、自らの学生時代の話や、必要としている人材像を説明することは、親や教師以外の社会人と接する機会が少ない生徒にとっては有意義なことであり、シビックプライドの形成に役立つのではないかと考えます。

大分経済同友会
ダイバーシティ大分委員会
委員長 加藤 一郎

1. 実施の経緯

(1) 大分経済同友会の問題意識

大分経済同友会（以下、当会）では常々、大分県の経済社会の活性化を図るうえで、若年層が大学進学や就職するときに県外に流出したまま、その多くが大分に戻らないことが大きな課題であると考えるに至った。その背景の一つとして、大分にどのような企業や仕事があるか、そして大分で暮らすことの楽しさを、若者自身が知る機会が少ないという点が指摘される。

すなわち、大分の若い世代に対してこうした情報を発信することで、彼らが県内での進学・就職を考えるきっかけをつくる取り組みが求められている。また、一度は県外に転出したとしても、移住や転職を考える際に、大分への U ターンを選択肢に入れてもらううえで、大分の仕事・生活を早期に知ってもらうことは不可欠であろう。

かかる問題意識のもと当会では、地方愛の醸成や関係人口の増加を調査・研究テーマに掲げるダイバーシティ大分委員会が中心となって、当会会員を学校に講師派遣する事業企画を立案した。さらに検討を重ねる中で、本件事業の目的達成には、大学受験・就職を控えた高校生よりも、仕事や就職を考え始める前の中学生にターゲットをあてることが重要との結論に至った。

このため当会は、2020 年に大分市教育委員会（以下、大分市教委）に対して「企業リーダーによる地元愛職業講座」（通称：出前講座）の試行を提案し、大分市教委の快諾を得て、中学生を対象とする講座開催が実現した。ただし、2020 年度は授業時間の確保が厳しく、新型コロナウイルス感染症の拡大防止も求められたことから、2021 年度に実施することとした。

(2) 大分市立中学校の現況

出前講座の位置づけや実施方法を検討するうえで、まず、大分市立中学校におけるキャリア教育や学校の IT 化の現況について整理する。

キャリア教育

大分市内の中学校におけるキャリア教育には、中学 1 年生を対象にした「ヤングキャリアアドバイザーによる職業講話」と、中学 2 年生が対象の「職場体験学習」がある。

職業講話は、市内事業所などに勤務する先輩職業人（ヤングキャリアアドバイザー）から、仕事の志望動機や業務内容の講話を、生徒が聴くという内容である。自分と年齢の近い若い職業人から直接話を聴き、働くことの社会的意義を感じることで、早い段階から職業観を形成させることが目的だという。

職場体験学習は、さまざまな職場での社会体験を通して、大分で働く職業人と接し、働くことの厳しさややりがいなどを学ぶもので、一人ひとりの勤労観や職業観を育むとともに、身近な地域や郷土の産業に目を向ける機会をつくることが目的である。

ただし、昨今のコロナ禍によって 2020 年度から職業講話、職場体験学習ともに実施できていないとのことである。こうした面からも今回の出前講座はたいへんありがたかったとの評価を、大分市教委と講師を派遣した中学校の双方からいただいた。

学校の IT 化

中学校の児童生徒に 1 台ずつタブレット端末を整備する国の「GIGA スクール構想」にもとづき、大分県内の全ての小中学校（一部私立中学校を除く）に端末の配備が終わっている。今回出前講座を実施した中学校のいずれにおいても、生徒 1 人につきタブレット端末 1 台が配られている。

ることを確認した。教師が使用するパソコン、プロジェクター、スクリーンも各教室に備え付けられている。

このため、理屈のうえではリモートによるオンライン講義も可能とみられるが、GIGA スクール構想が始まって間もないため、学校側の準備も十分整っておらず、今回は講師が学校に出向いて対面で授業を行うこととした。今後、オンライン講義が可能になれば、多数の生徒に授業内容を効率的に同時配信できるかもしれない。ただし、講師が直接教室に出向いて生徒の目を見ながら講義することには、オンラインでは得られない臨場感・説得力がある。また後述するように、今回の講師の多くが、会社員に求められる資質として「コミュニケーション能力」を挙げており、そうした観点からも対面方式の授業が向いている。

リアル／オンラインそれぞれのメリット、デメリットを勘案しながら、今後の講義方法を検討していくべきであろう。

(3) 実施要領

大分市教委と当会で出前講座の実施要領について協議を行った結果、原則として大分市内の公立中学校 2～3 年生を対象にすることとなった。講師については、生徒に身近に感じてもらううえで若手・中堅世代の企業リーダーが望ましいこと、講義でパワーポイントや映像を活用してもらいたいとの要望があった。

授業内容は主に、自己紹介、企業紹介、自身の経験を振り返っての仕事への気づき、企業リーダーとして中学生に期待すること、大分で暮らし働くことの魅力などで構成することとした。

中学 2～3 年生はまだ世の中にどのような仕事や会社があるかをそもそも知らないため、生徒の進路の判断材料を提供できるよう、企業紹介に際してはまず、自社が属する業界内の仕事内容を知ってもらうことが肝心である。そのうえで、自社についてアピールを行うこととした。企業リーダーなら、大学生や高校生へのリクルート活動の一環として自社を紹介する機会は多いかもしれない。その意味で今回は、中学生をリクルートするつもりで語ってもらえばよいのだが、中学生に理解してもらううえで、説明内容や語り口には工夫が必要である。

目的 大分県内または大分市内の企業の経営者・幹部（企業リーダー）から、地元企業の素晴らしさや郷土に対する思い、中学生時代の体験などを生徒が聴くことにより、郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めようとする意欲や態度を育むとともに、一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を支援する。

対象 大分市内公立中学校 2～3 年生（義務教育学校 8～9 年生）

※ 学校において、実施の有無や対象の学年を決定する。

※ 中学 1 年生（義務教育学校 7 年生）での実施も可能とする。

その他 講義については、学校の 1 単位時間（講義 40 分＋質疑応答 10 分）程度を目安とする。学級単位の講座の開催のほか、学年集会のようなかたちでの開催も可能である。

講座の開催に係る費用（講師の派遣に係る費用も含む）について、学校側の負担は不要。

(4) 募集結果

大分市教委が、大分市内の公立中学校に対して出前講座を希望する学校の募集を行い、大在中学校（2 年生 8 クラス）、上野ヶ丘中学校（2 年生 5 クラス、3 年生 5 クラス、各 2 回）、南大分中学校（2 年生 6 クラス）の 3 校から応募があった。

2. 事業実績

講師は、本件出前講座の企画を担当したダイバーシティ大分委員会が中心となって担うこととしていたが、それだけでは3校で計34回の授業を回す人的パワーが足りなかったため、大分活性化特別委員会にも協力を仰いだ。同委員会は、「大分を元気にする」をテーマに若い会員を中心とした自由な発想で、街の活性化、賑わいづくりにつながる企画を立案・実行することを活動方針としている。調査・研究ではなく実践を掲げていること、若い世代の企業リーダーが集まっていることから、今回の出前講座のパートナーとして適切であった。

(1) 岩田中学校でのモデル授業

大分市立中学校3校での出前講座に先立ち、講師予定者が自身の授業内容・構成を構想する参考としてもらうため、モデル的に授業を実施することとした。モデル授業実施校としては、学校法人岩田学園の協力を得て岩田中学校2年生を対象に実施することとなった。講師は、当会会員でダイバーシティ大分委員会のアドバイザーである日本政策投資銀行の植松康成所長に依頼した。講義内容については、①講師の経歴、②勤務先の日本政策投資銀行の活動内容、③大分の素晴らしさをテーマにしている。

ちなみに岩田学園の校舎は、大分出身の世界的建築家であり、建築界のノーベル賞といわれるプリツカー賞を受賞した磯崎新が設計している。このため講師予定者は、学園側の案内のもとで校舎を視察した後、植松所長の講義を見学した。

岩田中学校 出前講座概要

中学校	日程	授業時間	学年・会場	講師
岩田中学校	5月27日(木)	7限(15:20~16:10)	2年生・大講義室	1人

岩田中学校 講師名簿

講師	会社	役職	演題
植松 康成	(株)日本政策投資銀行	大分事務所長	大分経済同友会 出前講座 @岩田中学校 ~地元愛について~

植松所長がパワーポイントを使用して行った授業は、次のような構成であった。

講義「大分経済同友会 出前講座 @岩田中学校 ~地元愛について~」の目次

- I. スピーカー：植松康成について
- II. 株式会社日本政策投資銀行（DBJ）について
 - 1. DBJのプロフィール
 - 2. 銀行とは。日本政策投資銀行とは。
 - 3. DBJと大分県との関わり（業務の実例）
- III. 大分で働くとは
 - 1. 大分県から若者がいなくなる
 - 2. 食べ物がおいしい都道府県は？
 - 3. 仕事も趣味も充実した生活を
 - 4. 東京に行かなくても先端の仕事はできる。

(出典) 日本政策投資銀行 大分事務所 植松所長 プレゼンテーション資料

植松所長は、まずパートⅠで、日本社会の動きと並べながら自身の略歴を紹介した。

パートⅡでは、勤務先である日本政策投資銀行（DBJ）のプロフィール（企業概要、企業理念、組織体制、全国ネットワーク、サービス内容など）について説明した。さらに、銀行業務とはそもそも何かという業界事情を説明したうえで、政府系金融機関という DBJ ならではの業務の特色や、大分県内での投融資や情報提供（レポート作成・発表）の実績を紹介している。

続けてパートⅢで、大分で働くことの意味や楽しさについて語っている。自分や勤務先を紹介する前段と異なり、このパートは他の出前講座とも共通するテーマであるため、以下に植松所長が行った講義の概要を紹介したい。

大分県から若者がいなくなる

大分県は戦後、大企業の工場立地が進み、人口は増加基調で推移してきたが、その後緩やかに減少している。このまま何もしなければ将来、2045年（約25年後）には、総人口が約2割減少する。特に地域社会・地域経済で最も活躍する生産年齢（15～64歳）人口が、約1/4減少するとみられている（大分県人口ビジョン、2020年3月改訂）。

大分県の人口減少については、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」に加え、大分県から他県へ引っ越しする「社会減」の影響も大きい。特に、18～24歳の若者が大分県から離れ、その後、戻ってこないことが大きな要因となっている。18～24歳の約7万人（1歳平均1万人）のうち、1年で6,513人、すなわち1年次の約2/3が県外へ転出している。一方で県内への転入もあるため、差し引きでは1,804人のマイナスになっている。統計上、福岡、大阪、東京やその周辺へ引っ越ししていることがわかる。よりよい大学への進学や、大企業への就職が主な目的とみられる。

このままだと、大分県がなくなってしまう。そこで、生産年齢人口、特に若者の社会減をつなぎとめ、出生者数も維持するため、若者が「大分にいたい」と思えるようにする政策が求められる。その一つの試みが、今回の地元愛職業講座である。

若者が大分県から流出する要因としては、①単純に大分のよさを知らないのではないか（TVなどで映し出される都会の表面的なよさに囚われているだけではないか）、②大分でも「やりたい仕事」ができることを知らないのではないかという二点が考えられる。

食べ物がおいしい都道府県は？

「おいしい都道府県」調査（株ビー・エム・エフティー2019年調査）によれば、「料理・食材がおいしい都道府県」に選ばれた第1位は北海道で、以下、福岡県、大阪府、新潟県、石川県と続く。大分県は第29位で、平均以下の評価である。

一方、この調査で「居住都道府県（地元）の料理・食材がおいしいか」を質問したところ、地元で最も高い支持を得たのは北海道（91.9%）であった。以下、福岡県（66.2%）、石川県（60.8%）と続くが、大分県は何と第7位（53.5%）に位置している。

要するに、大分県はソトからの評価よりもウチでの評価が特に高い。考えられるのは、①大分県の料理・食材がおいしいことが世間に知られていないのか、②大分県民は他の地域にもっとおいしいものがあることを知らないのか、のどちらかである。いずれにしても、ある一面では、大分県民は地元のよさを認識している（地元愛はある）ように思う。にもかかわらず、若者が福岡や東京に行ったままなのは、①大学で福岡や東京に出て就職するときに大分県の企業をよく知らない、②大分での社会人生活が楽しいことを知らないというのが原因ではないか。

仕事も趣味も充実した生活を

社会生活基本調査（総務省 2016 年調査）によれば、大分県民は、起床時間は普通だが、通勤・通学時間は日本で最も短く、家に早く帰っている。就寝時間は平均的なので、アフターファイブの時間が多い、という特徴がありそうだ。

最近、「ワークライフバランス」という言葉をよく聞くが、これは「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること」を指す。仕事だけでなく、趣味やボランティアでも充実した活動をしたい人にとっては、大分県はすばらしい地域になるのだ。例えば東京は、時間をかけて通勤し、遅くに帰宅し、寝る時刻も遅い。

東京に行かなくても先端の仕事はできる。

要するに、同じような仕事をするなら、大分県で仕事をした方が「ワークライフバランス」の点からは望ましい。また、これからはデジタル化、テレワークの浸透によって、「ワーケーション」のように、どこにいても仕事ができる環境が生まれつつある。つまり、東京にいなくてもよいのだ。通学生の皆さんが就職するときには、そうした会社はもっと増えていると思う。また、いったんは外へ出てもいい。外へ出て、大分県を「客観的」に眺めて、改めて大分県のよさを認識してから、戻ってくるのもよい。県外にしながら新しいプロジェクトを大分県内で始めることもできる。さらに大分県にも、IT やドローン、再生可能エネルギーなど多くの分野で、世界に通用する仕事をしている企業が数多く存在していることを知ってもらいたい。

(2) 大分市立中学校 3 校への派遣実績

講師 18 人が各 1～2 回の授業を受け持ち、大分市立中学校 3 校で計 34 回の授業を実施した。地元企業を紹介するとの趣旨にもとづき、講師は県内に本社がある企業に絞った(一部例外あり)。

大分市立中学校 3 校 出前講座概要

中学校	日程	授業時間	クラス	講師
大在中学校	6月11日(金)	5限(13:35～14:35)	2年生8クラス	8人
上野ヶ丘中学校	6月29日(火)	3限(10:40～11:30) 4限(11:40～12:30)	2年生5クラス 3年生5クラス	12人(10クラス×2回=延べ20人)
南大分中学校	7月15日(木)	5限(13:10～14:00)	2年生6クラス	6人

大分市立中学校 3 校 講師名簿

学校	クラス	講師	会社	役職	演題
大在中学校	2-1	安部 茂	弁護士法人 いつき法律事務所	代表社員	弁護士の仕事とは
	2-2	加藤 一郎	税理士法人 大分共同会計	代表社員 税理士	大分で働く。税理士ってこんな仕事です。
	2-3	古城 一	㈱古城	代表取締役	仕事って、結構おもしろいよ♪ ～地元中小企業の役割と大在中学校生徒の 皆さんへメッセージ～
	2-4	川合 利昭	アサヒビール㈱	九州北部統括支社 大分北九州支店 理事支店長	大分の魅力と将来の職業選択
	2-5	今川 尚俊	富士フィルム BI 大分㈱	代表取締役社長	大分で働くこと。地元で働くこと。
	2-6	麻生 益直	八鹿酒造㈱	代表取締役社長	「私の仕事」(家業) 日本酒の伝統と文化
	2-7	佐藤 洋	㈱豊後企画集団	代表取締役	不動産と事業多角化
	2-8	鈴木 清己	㈱スズキ	代表取締役社長	企業にとって必要な人材とは
上野ヶ丘中学校	2-1/2-2	鈴木 博祐	大分瓦斯㈱	取締役	将来どこで何をして働くか ～地元企業の仕事と国家公務員(東京)の 仕事についてお話しします～
	2-2/2-3	岩尾 謙吾	イワオ事務機㈱	代表取締役社長	「岩尾文具グループの紹介」と 「大分で働くということ」
	2-3/2-4	平倉 啓貴	平倉建設㈱	代表取締役社長	働く意味を知る
	2-4/2-1	木原 久仁	㈱大分銀行	人財開発部人事役	銀行員の仕事
	2-5/ -	相澤 大介	㈱テレビ大分	営業部長	テレビ局の仕事とは
	- /2-5	加藤 一郎	税理士法人 大分共同会計	代表社員 税理士	大分で働く 税理士の仕事とは
	3-1/3-2	麻生 益直	八鹿酒造㈱	代表取締役社長	「私の仕事」(家業) 日本酒の伝統と文化
	3-2/3-3	古城 一	㈱古城	代表取締役	仕事って、結構おもしろいよ♪ ～地元中小企業の役割と上野ヶ丘中学校生 徒の皆さんへメッセージ～
	3-3/ -	仲摩 和雄	東九州設計工務㈱	代表取締役社長	私が建築を通して学んだ事
	3-4/3-1	永岡 壯三	大分石油㈱	代表取締役社長	「エネルギーの今と未来」と 「会社が求める人材」
	3-5/3-4	荘司 晃寿	㈱ブンゴヤ薬局	代表取締役社長	大分の未来へ 健康を考える仕事の今
	- /3-5	橋本 英子	大分朝日放送㈱	ビジネス統轄本部 ビジネス戦略局 ビジ戦略部長	ワクワクするテレビ局 ワクワクする人生 ビジ戦略部長
南大分中学校	2-1	橋本 英子	大分朝日放送㈱	ビジネス統轄本部 ビジネス戦略局 ビジ戦略部長	ワクワクするテレビ局 ワクワクする人生 ビジ戦略部長
	2-2	相澤 大介	㈱テレビ大分	営業部長	テレビ局の仕事とは
	2-3	江藤 佳史	江藤酸素㈱	代表取締役社長	地元と友人と仕事について
	2-4	鈴木 博祐	大分瓦斯㈱	取締役	将来どこで何をして働くか ～東京と大分での勤務経験から～
	2-5	安部 茂	弁護士法人 いつき法律事務所	代表社員	弁護士の仕事とは
	2-6	今川 尚俊	富士フィルム BI 大分㈱	代表取締役社長	大分で働くこと。地元で働くこと。

※ 上野ヶ丘中学校のクラスの表記について、例えば「2-1/2-2」とあるのは、3限は2年1組で、4限は2年2組で講義を担当したことを指す。また「-」とあるのは、その時限の講義を担当していないことを示す。

3. 事業評価

次年度以降の出前講座のあり方を検討するうえで、今回の試行の成果を検証して、必要な改善を加えていくことが重要である。このため当会では、講座を受講した生徒の感想を分析するとともに、各中学校の校長先生と出前講座の講師陣に対して、アンケート調査を実施した。

(1) 生徒からの礼状の分析

今回の出前講座に対して、大分市立中学校3校の受講生538名から礼状を受け取った。これは当会から要請したものではなく、中学校側が授業の一環として生徒に作成させたものである。なお、生徒全員が礼状を書いた学校と、クラスを代表して各数名の生徒が書いた学校があるため、実際の受講生は800名程度にのぼる。

礼状の様式は学校によって、便箋に清書させるスタイルや、質問用紙に回答を記入させるスタイルなどまちまちであった。

ちなみに、後者の質問用紙スタイルは、次の2項目について自由記述を求める内容であった。

- 講話を聞いて印象に残ったこと、初めて知ったことや、「働く」ということについて考えさせられたことなど、感想を書きましょう。
- 自分の将来に向けてもっと知りたいこと、自分で努力したいことなどを書きましょう。

礼状に記された感想のうち、特に多いものをタイプ分けすると次のとおりで、いずれも、出前講座が当初から想定した目的と合致していると評価できる。

生徒からの礼状における主な感想

- 会社や仕事の内容について詳しく知ることができて興味深かった。
- 会社の名まえは知っていたが、会社の商品・サービスが消費者に提供されるまでに多種多様な仕事が介在することや、仕事の内容の幅広さ（事業の多角化、海外進出など）に驚いた。
- 経営者自身の中学校時代などの実体験を踏まえた講義だったので、具体的でわかりやすかった。
- 就職後に、社会人として求められること、会社の中で期待されることを学ぶことができた。
- 大分という土地の魅力や、大分で働くことの意味・楽しさを学ぶことができた。

(出典) 生徒からの礼状に記された感想文のうち、特に典型的であった項目を当方にて整理。

続いて、礼状の中で特に印象に残った感想を引用したい。ここでは感想のタイプを、①働くことの意味、②大分で働くことの意味、③コミュニケーション能力の大切さ、④広い視野の獲得、⑤社会が抱える課題への気づきの5パターンに分類している。

生徒の礼状における印象的な感想

<p>①働くことの意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今学校で習っていることが将来仕事に役立つことを初めて知りました。最近、勉強に対するやる気を少し失っていたけれど、これを機に勉強に前向きに取り組むことができるようになりました。 ● 自分の満足だけで仕事をしていなくて、常にお客様の感動につなげていきたいという思いを背負って仕事をしているんだと知り、とても良いなと思った。 ● 僕にとって働くとは、収入を得るためだけにすることだと思っていましたが、講師の話を聞くと、働くとは、世の中の役に立つことや自分を磨く場など、とても働くことをプラスに考えていて、将来に少しでも希望を持つことができました。 ● 今まで私は働くことにあまり良い印象を持っていなかったけれど、社会に貢献したり個性や才能を発揮できることを知り、働くことが楽しみになりました。 ● 働くってどんな事という質問に、働かないとお金がないから働かなければならなく、そのためには自分が働いて楽しいと思える仕事をした方がいいと言われ、自分にとって楽しいと思える仕事に将来つこうと思えました。 ● 講師は「仕事にするなら、好きなことを仕事にしたいよね」とおっしゃっていましたが、私の父は「好きなことを仕事にするときらいになる」というのです。これは、人それぞれだということでしょうか。
<p>②大分で働くことの意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大分で働くことの良さ、他の地域で働くことの良さを知って、自分がどこでどのような仕事をすればよいかを少し見つけることができました。 ● 「地元で働く」ということはとても良いことで、講師も一度県外や海外へ仕事に行ったけど、最終的に今の仕事に就いているのはやはり地元大分にいるからだと思います。私も、高校や大学は大分にいたいなと思っているのでその間に大分の良いところや改善点をできるだけ多く見つけて、住みやすくなれば良いなと思います。
<p>③コミュニケーション能力の大切さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● たくさんの人と働く中でコミュニケーション能力や人間性はとても大切な能力だと感じました。 ● 社会で通用する知識を得るための理数系の勉強だけでなく、コミュニケーションを取っていくことも大切にしていこうと思います。
<p>④広い視野の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今の私の将来の夢だけでなく、視野を広げて、いろいろなものにたくさん出会った上で、自分に一番合った職業を選ぼうと思いました。 ● まだ自分の将来は完全にはきまっていないけど、将来の夢などがしっかりと決まったら、それまでに必要なことや知っておいた方がいいことなど、努力しておいた方がよいことをしっかり調べておきたいなと思いました。 ● 自分では常識だと思っていることも、何故そうなのか、何故そうするのかを考えることで、可能性が広がり、良い方向へと向かっていくのだろうと考えました。 ● 世の中の移り変わりが激しい今、新たなことに挑戦する勇気を身につけていきたいと思います。
<p>⑤社会が抱える課題への気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 私は今回のお話を聞くまで、ぜんぜん会社のことや IT のことなどがわからなかったけれど、働き方改革をしていることや、今後デジタルの進展や脱炭素社会、人口減少などがおこるなどたくさんのことが知れて良かったです。 ● 講師が言っていた「社会課題解決」の言葉や必要な力の話聞いて、私も自分が力になれることがあれば積極的に行動したいです。

(出典) 生徒からの礼状に記された感想文のうち、特徴的であったものを原文のまま引用(文中で講師の氏名を「〇〇さん」などと表記してある箇所は、「講師」という表現に置き換えた)

(2) 校長先生へのアンケート調査結果

当会は、大分市立中学校 3 校の校長先生に対して、今回の出前講座の満足度や今後の改善点などについて、アンケート調査を行った。以下にその結果を整理する。

問 1 出前講座に対する生徒や教員の皆さまの反応はいかがだったでしょうか。[自由記述]

出前講座は生徒・教職員ともにたいへん好評で、有意義な時間であったとの評価を、3 校からいただいた。

【主な個別意見】

- 生徒にとって CM や日頃の生活の中で身近に感じる企業もあったため、改めて企業の理念や将来ビジョンなどを聴くことで、地元企業への魅力を感じた生徒もいたと思われる。
- 「目に見える仕事内容だけでなく、想像できなかった裏のさまざまな仕事の存在を知ることができた」「地元で働くよさがよくわかった」「ドラマでしか知らなかった職業について、リアルに知る機会となった」「他県で働いてわかった大分のよさを教えていただいた」「仕事のたいへんさや喜びについて学ぶことができた」など、生徒の感想や日記から、彼らが多くのことを学んだことが窺えた。
- コロナ禍のため、学校が地域へ出向いたり、外部講師を招聘するといった活動が制限されていたので、たいへん貴重な機会であった。
- 2 年生と 3 年生では、自分の進路や将来について真剣に考えていかなければならない時期にある後者が、大いに刺激を受け、自分事としてしっかり受け止めていた。
- 生徒だけでなく教員にとっても、貴重なお話であった。

問 2 授業の内容や形式は適切だったでしょうか。改善したほうがもっとよくなる点があれば、お聞かせください。[自由記述]

授業内容・形式は適切であったとの評価を、3 校からいただいた。

【主な個別意見】

- 映像やスライドを活用して、生徒の興味関心をひきつけながら進めることで、とても理解しやすく親しみやすい講座になっていた（2 校より）。
- 事前の打ち合わせの際の学校側からの要望（例：「働くこと」の意味や、将来を見据えて中学生に求めることを教えてほしい）を、講師がしっかり受け止めて対応していただき、感謝している（2 校より）。
- 講師が中学生だった頃、どんな生徒で、どんな生活を送り、何をきっかけに現在の職業に就いたのかを話してもらったことで、生徒がとても身近に感じるとともに、学習に対する意欲が向上した。
- 講義の中で、生徒に簡単な問いを投げかけるなど講師の方とのやりとり（＝対話）があると、講師との距離感も縮まり、生徒の集中力も高まるのではないかと感じた。

問 3 貴校での事前打ち合わせを含め、講座の運営方法は適切だったでしょうか。改善したほうがもっとよくなる点があれば、お聞かせください。[自由記述]

出前講座の運営方法はおおむね適切であったとの評価を、3校からいただいた。

【主な個別意見】

- 事前打ち合わせの期日を、もう少し早め（例：年度当初、講座1か月前）にしていけるとありがたい（2校より）。
- 学校側として、生徒に講師の企業をインターネットで調べさせたり、事前指導を行うための準備時間を確保したいので、実施時期や講師名簿が早めにわかるとありがたい。
- より多くの講師によるポスターセッション方式ができるとよい。子どもたちそれぞれの興味関心に応じて講座を選ばせれば、より意欲的な参加ができると思う。

問 4 次年度以降も貴校での開催を希望しますか。[選択式]

- ① 希望する
- ② コロナ禍が終息せず、例年のキャリア教育が引き続き難しい場合、希望する
- ③ 希望しない

この設問に対する回答は、①が2校、②が1校であった。

問 5 （問 4 で、①または②と答えた方に）次年度以降について、出前講座を希望する学校が増加した場合、講師のキャパシティの都合上、講師を派遣する学校数を絞らざるをえなくなる可能性を懸念しています。一方、今回のような1学級ごとに講師1人を派遣する方式ではなく、例えば、1学年全員が体育館等を集まり（またはリモートで各学級に配信し）、講師1人が講義する方式を用いれば、より多数の学校に講師を派遣することができます。いずれを希望しますか。[選択式]

- ① 自校が選ばれる可能性が低くなったとしても、1学級1講師の方式が望ましい
- ② 自校が必ず選ばれるのであれば、1学年1講師の方式でもよい
- ③ 1学年1講師の方式が望ましい

この設問に対する回答は3校とも、1学級1講師の方式が望ましいが、それが難しければ、1学年1講師でも構わないというものであった。また、学年全体を対象とする場合でも、講師1人ではなく2～3人から話を聴けるとありがたいとの意見も寄せられた。

問 6 当会会員が、生徒ではなく教員向けに、今回のような講義（大分の企業や産業の紹介）を行う研修セミナーのニーズは、貴校にありますか。[選択式]

- ① ニーズはある
- ② ニーズはない

この設問に対する回答は、①ニーズはあるとしたのが1校、②ニーズはないとしたのが2校であった。1校単位でのニーズは必ずしも高くないという結果となったが、例えば、市町村単位での教員共同研修などでニーズはあるかもしれないため、大分市教委などと検討を行いたい。

(3) 講師サイドの評価

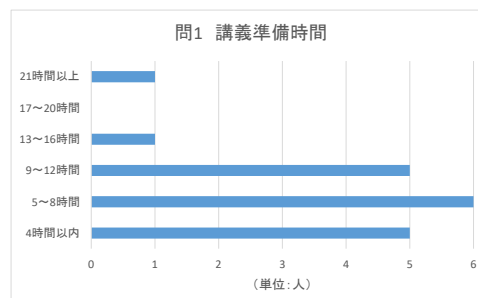
当会は、今回の出前講座を担当した講師 18 人に対して、授業の概要や負担感、評価や改善すべき点などについてアンケート調査を行い、全員から回答を得た。

以下に、それらの回答を集計した結果を整理する。

問 1 講義の準備（資料の作成、授業の練習など）に要した正味の時間を教えてください。

- ① 4 時間以内 ② 5～8 時間 ③ 9～12 時間 ④ 13～16 時間 ⑤ 17～20 時間
⑥ 21 時間以上

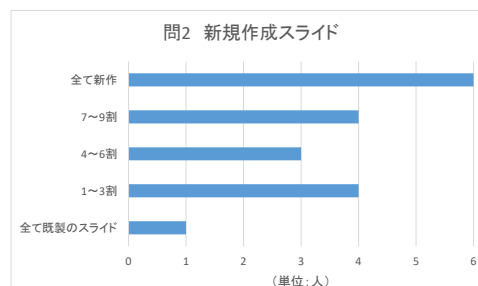
講義の準備に要した正味時間は「5～8 時間」という回答が最も多く、「4 時間以内」と「9～12 時間」がそれに次ぐ結果となった。平均値は約 7 時間である。



問 2 講義に用いたパワーポイント資料のうち、出前講座用に新たに作成したスライドの割合を教えてください。

- ① 全て既製のスライド ② 1～3 割 ③ 4～6 割 ④ 7～9 割 ⑤ 全て新作

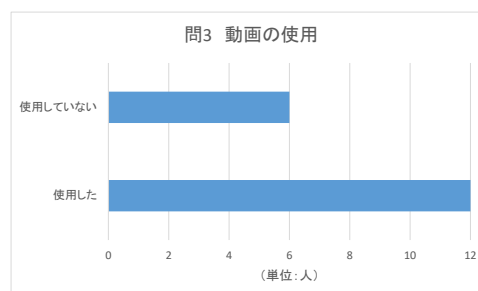
講義に用いたパワーポイント資料のうち、出前講座用に新たに作成したスライドの割合は、「全て新作」という回答が最も多く、「7～9 割」と「1～3 割」がそれに次ぐ結果となった。平均値は約 7 割である。



問 3 講義で、パワーポイント以外に動画（自社 PR、業界紹介など）も使用しましたか。

- ① 使用した ② 使用していない

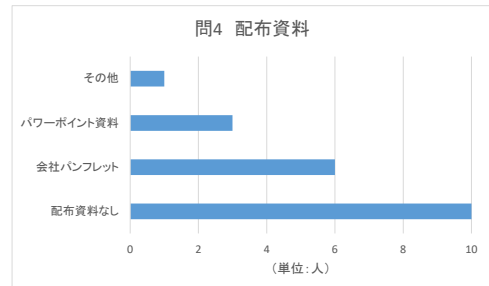
講義における動画の使用については、「使用した」という回答が多数を占めた。



問4 生徒の皆さんにどのような資料を配布したかを教えてください。[複数回答可]

- ① 配布資料なし ② 会社パンフレット ③ パワーポイント資料
④ その他 ()

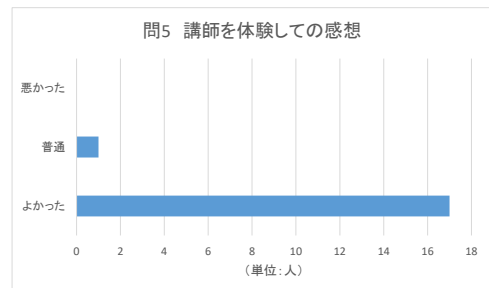
講義で配布した資料については、「配布資料なし」という回答が最も多かった。配布した資料については、「会社パンフレット」「(スクリーンに映写した) パワーポイント資料 (のアウトプット)」の順番であった。



問5 出前講座の講師を体験しての感想はいかがですか。

- ① よかった ② 普通 ③ 悪かった

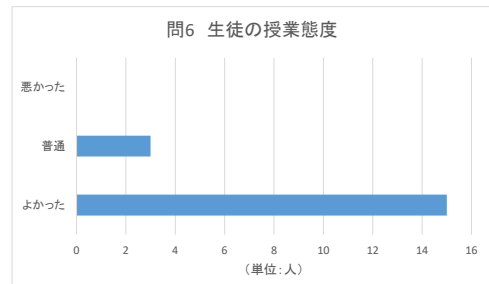
出前講座の講師を体験しての感想は「よかった」という回答が大半を占めた。



問6 生徒の皆さんの授業態度はいかがでしたか。

- ① よかった ② 普通 ③ 悪かった

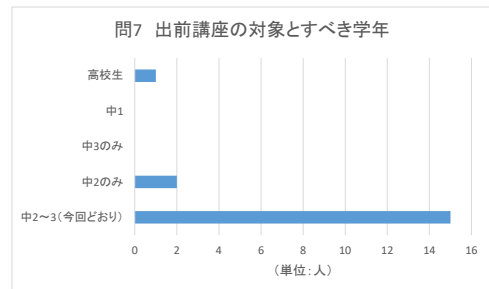
生徒の授業態度については、「よかった」という回答が大半を占めた。



問7 今回の出前講座では中学2～3年生に授業をしましたが、中学・高校の何年生を対象にするのが一番よいと思いますか。

- ① 中2～3 (今回どおり) ② 中2のみ ③ 中3のみ ④ 中1 ⑤ 高校生

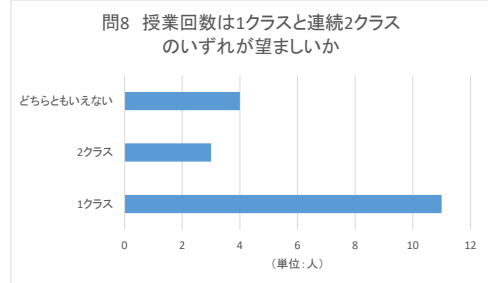
出前講座の対象学年については、今回の「中2～3」が一番よいとの回答が大半を占めた。



問 8 今回の出前講座では、授業を1クラス（50分）で行った中学校（大在、南大分）と、連続して2クラス（50分×2回）で授業をした中学校（上野ヶ丘）がありますが、どちらの方式が望ましいと思いますか。

- ① 1クラス ② 2クラス ③ どちらともいえない

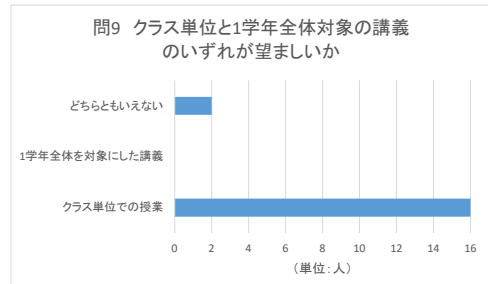
各講師が、授業を1クラス（50分）で行うか、連続して2クラス（50分×2回）を担当するかについては、「1クラス」という回答が大半を占めた。



問 9 出前講座には、クラス単位での授業（今年度の方式）以外に、1学年全体を対象に学年集会などの場で講義を行う方式もありますが、いずれが望ましいですか。

- ① クラス単位での授業 ② 1学年全体を対象にした講義 ③ どちらともいえない

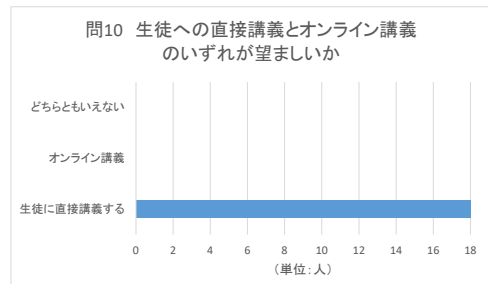
出前講座をクラス単位で行うべきか、1学年全体を対象に行うべきかという設問に対しては、「クラス単位での授業」を望む回答が大半を占めた。



問 10 講師が中学校に出向いて生徒に直接講義する方式（今年度の方式）と、オンラインで講義を生徒に配信する方式では、いずれが望ましいですか（開講時にコロナ禍はすでに終息していると仮定します）。

- ① 生徒に直接講義する ② オンライン講義 ③ どちらともいえない

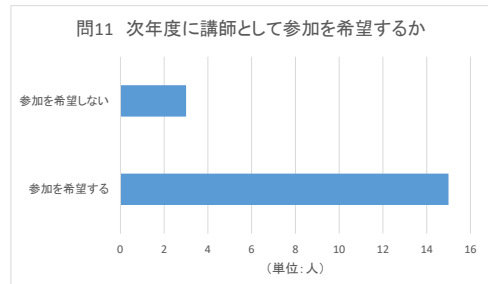
生徒を前にしてのリアルな講義と、オンライン講義の配信のいずれが望ましいかという設問に対しては、全員が「生徒に直接講義する」を選択した。



問 11 次年度の出前講座に、講師としての参加を希望しますか。

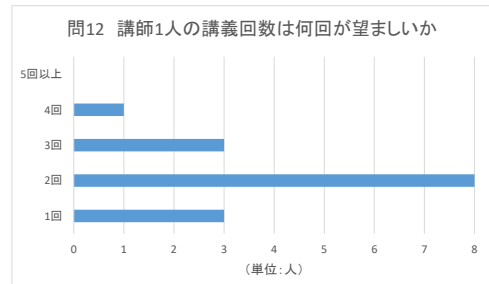
- ① 参加を希望する ② 参加を希望しない

次年度の出前講座への参加希望については、「参加を希望する」という回答が大半を占めた。



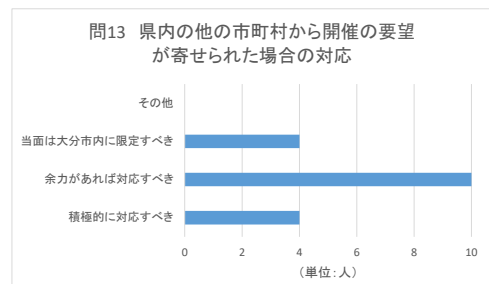
問 12 (前の問いで「参加を希望する」と回答した方に対して) 1 年度あたりの講師 1 人の講義回数は、何回程度が望ましいと考えますか。
 ① 1 回 ② 2 回 ③ 3 回 ④ 4 回 ⑤ 5 回以上

1 年度あたりの講師 1 人の講義回数としては、「2 回」が望ましいという回答が多数を占めた。平均値も 2.1 回であった。



問 13 今回の出前講座は、派遣先を大分市内の中学校に限定しましたが、県内の他の市町村から開催の要望が寄せられた場合、どのように対応すべきと思いますか。
 ① 積極的に対応すべき ② 余力があれば対応すべき
 ③ 当面は大分市内に限定すべき ④ その他 ()

出前講座の派遣先を、大分市内の中学校に限定すべきか、県内の他の市町村にも拡大すべきかとの設問に対しては、「余力があれば対応すべき」という回答が多数を占め、「積極的に対応すべき」「当面は大分市内に限定すべき」がそれに次ぐ結果となった。



問 14 その他、出前講座に対する意見・感想を自由にお書きください (例えば、生徒の反応を見てどう感じたか、学校に要望したい事項、運営を改善すべき事項など)。

寄せられた意見・感想のうち、出前講座の運営改善に関するものを紹介する。

- 県外へ進学した学生に U ターン就職を斡旋しているが、大学生に U ターンを促すのは時期としてすでに遅い。遅くとも高校生の段階から、U ターンの意識を醸成するのが効果的であり、今回の講座に参加できたのは貴重な経験であった。
- 今回の出前講座では、女性の講師は 1 人であったが、増やした方がよいのではないか。
- 生徒が事前学習 (講師の会社を下調べ) や質問事項の準備をしているようなので、出前講座の 1~2 週間前には、講師名や演題を学校側に伝えた方がよい。
- 講師の確保を早期にしておく必要がある。また、講師予定者の都合が急遽悪くなった場合に備えて、予備の講師も確保しておくことが必要である。
- 学校で「働くこと」についてどのように教えているのか、教科書や副教材の該当部分のコピーでよいので事前に知ることができれば、講義の参考になる。
- 事前に総合の時間などで職業などに関する調査を行い、生徒が職業・仕事の内容にどの程度の知識を持っているかを教えてもらえると、講義内容が生徒の知識とかみ合ってよい。
- 一方的な説明ではなく、対話形式にするなど、生徒を飽きさせない工夫が必要である。
- 上野ヶ丘中学校で連続 2 クラスの授業をしたが、1 クラス目の機材トラブルと講師の時間配分が悪く、2 クラス目の授業開始に影響が出た。トラブルも想定に入れた時間配分にした方がよい。

- 上野ヶ丘中学校では、1 クラスが 2 人の講師から授業を受けたため、それぞれの業界の違いや、「働く」ということの共通点などを見出してもらえたのではないかと。

(4) 検証結果

講師に対する生徒からの礼状の内容を精査した結果、今回の出前講座に対する評価は高く、①働くことの意味、②大分で働くことの意味、③コミュニケーション能力の大切さ、④広い視野の獲得、⑤社会が抱える課題への気づきなど、生徒にとって多面的な発見があったと認められる。

また、中学校 3 校の校長先生に対するアンケート調査でも、出前講座は生徒・教職員ともにたいへん好評で、有意義な時間であったとの評価をいただいた。授業内容・形式や講座運営方法も適切であり、特にパワーポイントや映像コンテンツを用いた講義は、生徒にとって理解しやすく親しみやすい内容であったと評価された。このため、次年度以降の開催に対する希望が寄せられている。今回の講座のように 1 学級ごとに講師 1 人を派遣する方式か、学年全員を集めて講師 1 人が講義する方式のどちらを希望するかについては、1 学級 1 講師が望ましいが、それが難しければ 1 学年 1 講師でも構わないという回答であった。

講師に対するアンケート調査でも、講師を体験しての満足度は高く、1 学級 1 講師か、1 学年 1 講師かという設問に対しては、1 クラス単位で授業を行いたいとする回答が圧倒的に多かった。彼ら講師陣は、オンラインではなく中学校に赴いてライブで講義することを希望し、次年度も講師を担当したいという意見が大半を占めている。中学生の授業態度はよく、30 名規模の生徒と直接向き合い、目を合わせながら行う授業は、講師側にとっても意義ある体験になったと思われる。

資料作成など講義の準備に要した時間は、平均して約 7 時間で、ある程度の作業負担は生じるが、講義資料は一度作成すれば次年度もほぼそのままのかたちで使用できる。年間講義希望回数の平均が約 2 回になっているのも、せっかく準備をした以上、1 回限りでなく 2 回ぐらいは講義したいという思いの発露ではないだろうか。

次年度講座の対象年次については、今回のまま（中学 2～3 年生）でよいとの回答が多数を占めた。また 1 日の講座で、授業を 1 クラスで行うか、連続して 2 クラス担当するかについては、1 クラスがよいという意見が多かった。講師がいずれも多忙な経営者であることを踏まえるに、1 日 1 コマの運営を原則とした方が、講座の持続可能性を高められると判断する。

大分市内で開始した出前講座を県内の他市町村へ拡大すべきかという設問については、「余力があれば対応すべき」という意見が多かった。大分市内をベースとしつつ、他市町村の教育委員会や中学校から相談を受けた場合に、個別に検討すればよいと考える。

4. 他地域の経済同友会における取り組み

(1) 文献調査

経済同友会はおおむね、都道府県単位で設けられている。他地域の経済同友会でも出前講座を行っているかどうかを、それぞれの公式ウェブサイトを確認したところ、富山県、栃木県、群馬県、新潟県で出前講座を実施していることが判明した。当会では今回、大分市教委と個別に協議して市内の小学校に募集をかけたが、これらの4団体は教育委員会を通さずにネット上で直接、学校などからの応募を受け付けている。出前講座を開始したばかりの当会の場合、そうした直接募集が適切かどうかは検討に値しよう。

他地域の経済同友会の出前講座

同友会	事業名	事業概要
富山 経済同友会	課外授業 講師派遣制度	活動に賛同した会員が、それぞれの得意とする分野について話す（例：人生の先輩としての体験談、働くことや学ぶことの意味、職業観、人生観、夢を持つことの大切さ、これからの社会で必要となる力）。主に小学校（高学年）、中学校、高等学校の課外授業や特別授業に講師を派遣。 2001年度にスタートし、2020年度までに281回実施（年平均14回）。2020年度実績は15校（小学1校、中学9校、高校5校）。講師1人で1学年や全学年を担当するケースが基本の模様だが、1学年に講師を5人派遣している中学校も1校あった。 また、生徒への授業以外に、教員などを対象とする教育講演を毎年、数回実施している。
栃木県 経済同友会	講師派遣事業	栃木県の将来を担う「人財」育成に向け、企業や社会の変化の現状を直接伝えることを共通メッセージとしたうえで、学校側が求める狙いに沿って講話を進める。中学・高校での授業以外に、教員研修会・勉強会、PTA会合などでの講演にも対応。 2020年度実績は13校（中学10校、高校3校）。
群馬 経済同友会	社会人講師派遣	授業は、それぞれの講師が長い企業人生活で培った幅広い知識や経験に基づいた講演が中心となる。この活動を通じて、企業や社会の現状、夢や生き方について生徒や教師の方々に直接伝え、職業教育の推進に役立てたいとの趣旨。 2020年度実績は12校（中学7校、高校2校、短大1校、群馬県総合教育センター〔教職員向け〕2回）。各回講師1人で、聴講者は100名以上のため、講堂などでの講演が主体とみられる。
新潟 経済同友会	出前授業	キャリア教育は職場体験だけではなく、社会貢献につながる勤労観・職業観を身に付けてもらうことが必要として、郷土愛の醸成や将来、社会人・職業人として生きていくために、人生の先輩としての生き方や考え方を伝えるとともに、社会に貢献する働き方の一端を知る機会とする。 2011/2～2019/10に45回実施（年平均5回）。複数の講師が各1クラスを担当するケースや、講師1人で1学年や全校を担当するケースなど、バリエーションがある。ウェブサイトにも、出前授業講師登録者を公表しており、2021/11確認時で24人が登録している。

（出典）各地域経済同友会 公式ウェブサイトより作成

※ 公式ウェブサイト上で、出前講座の公募を行っている経済同友会の情報を掲載した。ただし、上記以外の地域でも、出前講座を実施している経済同友会が複数確認されている。

(2) 富山経済同友会との意見交換

当会では、ダイバーシティ大分委員会が中心となって2021年11月に富山視察を行った。関係

人口の増加や、地元愛・シビックプライド醸成をテーマとした視察で、富山県の新田八朗知事や富山経済同友会を表敬訪問して意見交換を行った。

中でも、文献調査から明らかになったように、富山経済同友会は2001年度から長年にわたって「課外授業講師派遣制度」を運営しており、当会の出前講座の大先輩といえる。このため、意見交換にあたっては、制度運営の実態について詳しく話を伺った。以下にその概略を記したい。

課外授業講師派遣制度を始めた経緯について

富山経済同友会の教育問題委員会が、親から子へと家庭教育が十分にできていない中で学校教育現場に家庭教育を持ち込み、社会人になった者が学校へ赴き働くことの意味を伝えるのが有効ではないかと20年前に提言をしたことにより、課外授業の一環として出前授業を開始した。

20年継続して講師派遣を行った効果について

出前授業を開始して20年が経過し、その効果があったかどうかの検証はしていないものの、20年間継続して行っていることにより派遣先の学校数も増加していることから、学校側からはそれなりに評価を得ている。また、富山県では「14歳の挑戦」と題して中学校2年生が職場体験学習を行っている。その職場体験学習に先立ち、学校の先生もキャリアが少ないことから、働くことの意味や働く際の注意点なども教えている。

課外授業の内容について

大分経済同友会では「地元愛」という観点から、将来の地元就職やUターンに結びつくことも視野に入れて、講師の企業紹介も含めた授業を行った。これに対して富山では、基本的には働くことの意味を伝える内容をメインに授業を行っている。その一方で、学校側からの要望により、小学校では「ふるさと」をテーマにした授業を行い、高校生には地元企業の紹介を伴った授業を行う場合もある。

派遣先の学校の選定について

富山経済同友会では、富山県内のすべての小学校・中学校・高校に富山経済同友会が実施している授業内容を送っており、各学校から富山経済同友会に直接申し込むようにしている。富山経済同友会が押しかけていくようなことはしていない。また、申し込みがあった学校を選別することなく、要請があった学校ではすべて課外授業を行うようにしている。

派遣する講師について

派遣する講師については、富山経済同友会の会員に講師登録をしてもらっている。そのうえで教育問題委員会や事務局が、学校側のリクエストに応じて講師を選定するようにしている。

初めて講師をされる方は張り切って授業に向かうため、寝ている子供をみると「なんで寝ているんだ」とエキサイトする方もいる。しかし、会員は講師という立場で授業をしており先生ではないので、これはNGである。寝ている子供たちが悪いのではなく、眠たくなるような話をする講師が悪いと考えるべきである。そのために富山経済同友会では、講師登録をする方に対してオリエンテーションを行っている。上記のようなNG行動のほかに、限られた時間の中で自分が言いたいことを詰め込まないこと、最初の掴みが大事であるといった話をするようにしている。また、教師向けにも講義を行うが、教師はすでに社会人であるので、社員などに対してレクチャーするのと同じ要領で行うようにしている。

5. 次年度に向けて

以上の事業評価の結果や他地域の事例研究を踏まえ、次年度の出前講座は次の方針で臨みたい。

(1) 対象学校・学年

- 大分市内公立中学校 2～3 年生（義務教育学校 8～9 年生）
- 実施の有無や対象の学年は、各学校において決定する。
- 学校から希望があれば、中学 1 年生（義務教育学校 7 年生）での実施も可能とする。
- 大分市以外の県内市町村の教育委員会や中学校から開催の要望が寄せられた場合は、実施の可否について個別に検討する。
- 教員向けの研修については、大分市教委などとの間でニーズを確認したうえで、実施要否を判断する。

(2) 講座方式

- 中学校の 1 学年全体（中学 2 年生または 3 年生）を対象として、クラスごとに講師 1 人を派遣する（1 学年に 5 クラスある場合は、講師 5 人を派遣）。
- 今年度の出前講座では、講師固定型（講師が 1 クラスで授業を行う方式。大在・南大分中学校で採用）、講師移動型（講師が 1 クラスの授業を終えた後、別のクラスに移動して同じ内容の授業を行う方式。上野ヶ丘中学校で採用）の 2 種類を実施したが、後者は講師側の負担が大きく、より多くの中学校に講師派遣を行ううえで、次年度からは講師固定型を原則とする。

(3) 講師陣のあり方

- 大分にどのような企業や仕事があるか、大分で暮らすことの楽しさを生徒に伝えるため、講師は原則として、大分県内に本社を持つ企業・団体の経営者・幹部（企業リーダー）とする。
- また、生徒に身近に感じてもらえるよう、若手・中堅世代の企業リーダーを講師とする。
- 講師は、当会会員であることを基本とするが、会員所属企業から適任者を紹介してもらう場合もある。
- 講義は、パワーポイントを使用して行い、必要に応じて映像コンテンツも適宜活用する。

(4) 講座陣の人数確保

- 現行の講師陣（ダイバーシティ大分委員会、大分活性化特別委員会の運営委員が中心）で対応できるのは 30 クラス程度であり、カバーできるのは 4～6 校とみられる。
- その一方で、大分市内の公立中学校を対象とする出前講座は、今回が“試行”という位置づけであり、試行対象校や大分市教委の高い評価を踏まえれば、次年度以降は開催希望校が大きく増える可能性もある。そうしたニーズに応えようとするならば、担当委員会の枠を超えて、講師陣を増やしていく必要がある。
- 新たな講師候補者は、担当委員会が主催するオリエンテーションに必ず参加してもらうとともに、講師経験者による講義を中学校で事前に聴講することを原則とする。

- 「大分で暮らし働くことの魅力」のように、講師の業種・企業に縛られない普遍的なテーマについては、パワーポイントで共通フォーマット（大分の魅力に関する基礎データ）を制作することを検討したい。ただし、そのフォーマットを講義で使用するかどうかは、それぞれの講師の判断に委ねる。

6. 出前講座運営マニュアル

以下に、今後の出前講座運営にあたって留意すべき点をマニュアルにまとめた。あくまで今年度の事業経験にもとづく暫定版であるので、実際の運用にあたっては、大分市教委や学校の要望も踏まえつつ、適時適切に対応することが望まれる。

(1) 出前講座を担当する講師の確保

当会サイドで、次回の出前講座をどのような開催方式・規模で行うかを意思決定して、その遂行に必要な講師予定者を確保する。今年度の講座における要望・経験を踏まえれば、講師適任者は次のとおりである。

- 生徒に身近に感じてもらううえで、若手・中堅世代の企業リーダーを講師とする。
- 講義では、パワーポイントを使用するものとし、必要に応じて映像コンテンツも活用する。

(2) 出前講座を実施する中学校の募集

大分市教委が中学校に出前講座の申込書を配布して、講座開催を希望する学校を募集する。講座申込書には、希望時期（可能であれば日時まで）、学級数、講師人数、学校側担当者、連絡先などを記載してもらおう。ちなみに今年度の場合、前年度中に大分市教委が募集を行い、今年度当初の段階では講座開催校を決定済であった。

(3) 講師決定

大分市教委から出前講座希望校について連絡を受けた当会は、各中学校に派遣する講師を確定して、各校に講師名簿を提出する。

ただし、事前に講師予定者を固めたとしても、仕事の都合でいったん決まった講師を辞退せざるをえなくなる可能性がある。片や学校側には、授業前に生徒に講師の会社をインターネットで調査させるなど、事前指導を行うための準備時間を確保したいというニーズがある。このため、学校側の準備スケジュールも十分確認したうえで、講師を最終的に確定していく必要がある。

また、講師名簿の確定後、各講師の演題が決まった段階で事前に中学校に連絡する。

(4) 事前打ち合わせ

委員会と事務局で事前に中学校を訪問して、出前講座の実施要領を確認するとともに、中学校からの要望事項を確認する。学校側の対応者は校長先生と、講座受け入れを担当する教員というケースが通例であった。

今年度の実績としては、講座開催日の10～20日前に事前打ち合わせを行ったが、事後に校長先生にアンケートをした結果では、もう少し早め（例：年度当初、講座1か月前）に打ち合わせができるとうれやうとの意見が寄せられた。

今年度の講座においては、主に以下のような要望が寄せられた。

- 企業の仕事内容や業績の説明・アピール
- 働くことに対する意義（職業観）について
- 社会や企業は今どのような人材を求めているのか（義務教育である中学3年間にどのような力を身につけておくべきか、どのような経験が後に社会で生きてくるかなど）

- 地元企業としてのがんばり・魅力について
- 郷土への思い、若者への期待

実務的には、以下の諸点についての確認が必要である。

- 当日スケジュールの確認
 集合時刻・場所 【例】授業開始 20 分前に校長室に集合
 授業時間 50 分の配分 【例】講義 40 分（準備作業・講師紹介を含む）＋質疑応答 10 分
- 見学者受け入れの了解
 校内のセキュリティを確保するため、講師以外の見学者の所属・氏名・人数についても学校に事前登録する。見学者としては、当会の事務局や、今後の出前講座で講師を務める予定の会員が想定される。また講師の一部には、自社スタッフを授業のアシスタントとして同行させる事例もあった。
- 生徒人数の確認
 会社パンフレットなどの生徒への配布を希望する講師のために、準備する資料の部数を確認する。
- 駐車場の確保
 講師・見学者のほとんどは自社から三々五々、車で学校に集まるため、人数分の駐車場の確保が必要になる。学校側に校内のどのスペースに駐車すればよいかを確認する。
- 新型コロナウイルス感染症対策
 どのような場合に授業を中止とするか（臨時休校など）、オンライン授業への切り替えの可否などを確認する。

（5）講師の準備

講師が事前に準備すべき作業・資料は、以下のとおりである。

- 講師各自で、パワーポイントや映像によるプレゼンテーション資料を作成・準備する。
【注意事項】
 プレゼンテーション資料はスクリーンに映写するが、生徒への印刷・配布は要しない（講師が配布を希望する場合は、講師サイドで所要部数を準備する）。
 出来合いのプレゼンテーション資料（例：大学生を対象とするリクルート資料）を流用することは構わないが、相手が中学生であることを意識したうえで、口頭では、彼らにも十分理解できる説明を心がけることが重要である。
- パワーポイントなどを操作するためのパソコンは講師各自が準備して、当日持参する。プロジェクターやスクリーンは学校に完備されている。
【注意事項】
 プロジェクターをパソコンと接続するケーブルも教室に用意されているが、パソコン側に HDMI 端子が必要である。
 教室に備え付けのスクリーンは小型（黒板の数分の一のサイズ）のため、パワーポイントの文字フォントのサイズが小さいと、生徒が読むことができないので注意。
 また、教室に暗幕は設置されておらず室内は暗くならないため、淡い色調の文字フォントや、類似した配色同士のコントラストは、生徒が見分けにくい。

校内に Wi-Fi は整備されているが、情報セキュリティ上の問題で、外部から持ち込んだ講師のパソコンとは接続できない。このため、YouTube などを利用する場合は別途、中学校側のタブレット端末を準備してネットに接続するか（事前に学校と要調整）、YouTube のファイルをあらかじめ講師パソコンにダウンロードしておく必要がある。

- （必要に応じて）会社パンフレットなどを所要部数準備して当日持参する。

（6）出前講座当日の運営

学校によって細かな点は異なるが、当日の段取りはおおむね次のとおりである。

【集 合】

- 全ての講師・見学者が、集合時刻までに指定された場所（校長室など）に集合する。
- その場で、校長先生や担当教員と挨拶する。
- 授業開始時刻の少し前に、クラス単位で生徒代表が、集合場所に講師を迎えに来る。

【授 業】

- 教室到着後、パソコンをプロジェクターにつなぎ、パワーポイントなどをスクリーンに映写できることを確認する。
- 担当教師（または生徒代表）が、講師紹介を行う。
- 講師が、講義を行う。

冒頭のパソコン準備から講義までを 40 分間で終わらせ、質疑応答の時間を 10 分程度確保する。生徒に、講師の企業の事前調査に加えて、あらかじめ質問を考えさせている学校が多いため、この時間を必ず確保することが重要である。

- 質疑応答を行う。学校によっては、質疑応答の進行を担当教師や生徒代表が務める場合もある。

【解 散】

- 授業終了後、生徒代表が講師を元の集合場所まで案内する。
- 校長先生などと暫時懇談した後、現地にて解散。

(7) 授業のプランニング

以下に、授業の構成を示す。ただし、これはあくまで例示にすぎず、講義する項目・内容や説明する順番・時間配分を、フレキシブルに変更してもらって構わない。

授業のプランニング (案)

講義項目 (時間)	講義内容 (例示)
1. 自己紹介・ 趣旨説明 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 出前講座の趣旨を説明 ● 自身と自社について簡潔に紹介
2. 企業紹介 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社が所属する業界の概要や特色の紹介 ● 自社の仕事内容や業績の紹介
3. 自身の経験を振り返っての仕事への気づき (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分自身のこれまでを振り返って、どのようなタイミングでどのような経験をして、それが今日の仕事や生活にいかに関与しているか ● 特に、中学生時代の思い出 (勉強、部活動、当時の将来への夢など) について ● 中学生時代に、どのような力を身につけておくべきか、どのような経験が後に社会で生きてくるか
4. 企業リーダーとして中学生に期待すること (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 働くことの意義 (職業観) について ● 社会や企業 (特に自社) は今、どのような人材を求めているか ● さらに、今後の社会の変化を見据え、どのようなスキルを身につけることが望まれるか
5. 大分で暮らし働くことの魅力 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 大分の社会課題 (人口減少、少子化・高齢化、若者の県外流出など) ● 大分という土地の魅力 ● 大分で暮らし働くことの意味・楽しさ
6. 質疑応答 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の質問を受け付ける

※ 地場企業の若手社員と比べて、企業リーダーの多くは県外で就学するだけでなく、県外で社会人として実地に働いた経験を持っている。そうした他県での生活・仕事と比較して「大分で暮らし働くことの魅力」を、実感を込めて説得的に話す講師が多かった。

【問い合わせ先】 大分経済同友会

〒870-0021 大分市府内町 3 丁目 4-20
大分恒和ビル 3F

TEL 097-538-1866

E-mail info@oita-doyukai.jp